

●○○●● 主な内容 ●○○●●
 学友会新体制発足
 後期代議員会報告
 局総会報告
 ○●○○●●○○●●○○●●○○●●
 2014年(平成26年)
 4月2日発行
 第22号

創大 学 友 新 聞

-THE SODAI GAKUYU SHIMBUN-

【発行所】
 創価大学学友会
 東京都八王子市丹木町 1-236
 郵便番号 192-8577
 電話 (042)-691-0806
 ◎ 創価大学学友会 2014年
<http://gakuyukai.soka.ac.jp>

学友会 新体制発足

2月6日、学友会本部役員執行交代式が行われ、第41代学友会が正式に発足した。体育・学術・文芸の各局委員長からのメッセージをここで紹介する。



第41代体育会委員長
谷川 竜平

皆さんこんにちは！第41代学友会体育会委員長を務めさせていただきますことになりました。軟式野球部出身の谷川竜平と申します。1年間、創大建設の主体者として池田先生の為、創大建設の為、全力で戦ってまいりますので何卒よろしくお祈り致します。1年次に軟式野球部に入部し、様々な場所でお戦わせていただく中で創大の魅力を感じ、創立者の真心、素晴らしい先輩・同期・後輩に触れながら成長することができました。今まで受けてきた恩に報いる為に、現役創大生としての最後の年に体育会委員長という立場で創立者にお応えしてゆきます。



第41代文芸局委員長
安田 健司

この度、第41代文芸局委員長を務めさせていただきますことになりました。文学部人間学科41期、Soka Music Society出身の安田健司と申します。私は創立者の心を創価大学に永遠に残すために誰よりも戦い抜いて参ります。創立者の心とは目の前の一人を徹して励まし抜くという心だと私は考えています。



第41代学術局委員長
宮住 哲夫

創価幼稚園研究会出身の経営学部41期の宮住哲夫です。この度、第41代の学術局委員長として戦わせて頂くことになりました！私の創大生活はクラブと共にあり、創価大学を大好きだと思えたことも、創大生として創立者を求めようと思える自分になったのも、クラブでの経験があったからです。

局総会報告

体育会総会

体育会の部に所属している全創大生を対象とした体育会総会が、1月30日にディスカバリーホールにて盛大に行われた。



▲体育会総会の様子



▼学術局総会の様子

学術局総会

今回の体育会総会の実行委員長である梶川君は、「どこまでも創価大学体育会のクラブという誇り、創価の名を背負っているというのを忘れず、またクラブで培った、強靱な精神と健全なる身体、そして創価の負けじ魂を忘れず、社会へ実証を示していく決意ができる場になればと思います」と述べ、今回の会合で創価大学の体育会クラブの一人ひとりとして誇りを胸に団結していこうと呼びかけた。

その大好きな創価大学で、創立者の代わりとなって、クラブ発展の為に戦わせてもらえる事に感謝し、自分がクラブの活動を通して感じたように、創価大学を大好きになれる、そしてクラブ員さん一人ひとりが成長できるクラブ建設を目指してまいります。建学の精神にある、創立者の平和への思いを体現していくのは、学術局の各クラブ団体の使命であると思います。学術局が一体となって、創立者の思いを学び、一人ひとりが平和の使いとしての自覚を持てるように、クラブを支え、発展させていきたいと思っております！

全学術局団体が集まった学術局総会が1月31日、ディスカバリーホールにて開催された。

総会後には、「学術局の使命の深さを実感した」「世界平和に向けて、自分出来る事に挑戦していきたい」「自分が創大を創り上げていく一員であるという事を再確認することができた」というクラブ員の声が寄せられる等、新たな決意を胸に出発を切る会合となった。

青春の光

近年稀にみる豪雪を乗り越え、3月20日に創価大学第40回卒業式が盛大に執り行われた。卒業生は大学生活で得たものを存分に社会で発揮していく決意を新たにしたい。創立者は、第40回入学式のスピーチの中で、「若き君たちの生命は、一日一日、毎日が成長である。一月一月、前進である。一年一年創造なのです。全員が勝利の人生を歩んでもらいたい。」(第40回入学式スピーチ)と述べられている。創大生一人ひとりが毎日成長の日々と言える学生生活を送っていくことを創立者はご期待されている▼卒業後は、それぞれが様々な道に進むが、我々創大生は、師匠との誓いを決して忘れてはならない。創立者は、「私は勝って勝って勝ちぬいた！これがわが人生の最高最大の誇りだ。君もまたわが弟子になれば決して『誓い』を忘れるな！青春の『誓い』に結ばれた創価同窓の連帯こそ世界をつなぐ金の橋であるからだ。」(桂冠詩人の世界何があっても君はわが最愛の弟子)と綴って下さっている▼創価大学での日々で創立者と共に築いてきた師弟の絆は、自身で誓いを立て、戦い抜いた時に深まったのではないだろうか。創大40期生、短大28期生はこれから社会に飛び立つにあたり、創大卒業生であるという誇りを胸に、社会の荒波に立ち向かいそれぞれの場所で勝利してまいりたい。

後期代議員会 行われる

後期代議員会が昨年11月21日、S202教室で行われた。代議員会の軸を「団結」(団体や局の垣根を超えて異体同心の精神で創大建設する)・「後継」(これまでの戦いや思いをしつかりと伝え残し、来年度のクラブ運営や創大建設に活かしていく)・「出発」(来年度に向けての決意をしていく)の3つに定め、創大建設につながる代議員会を目指した。

今回の代議員会の5号議案では、「後継のバトンプロジェクト」が提案され、賛成多数により可決された。

後継のバトンプロジェクトは、創立者の精神や思想、そして草創から続く先輩方のクラブに対する思いを学び、一人ひとりが自発的に創大建設を実践していく創大生になっていくことを目的としている。年に2回の研鑽を各クラブ

▲学友会受付に設置された研鑽資料BOX



に推進する他、より研鑽しやすい環境をつくるために、学友会受付に研鑽資料BOXを設置し、各クラブが持つ研鑽資料を項目ごとに集約・公開する。

クラブ員さんからの「創立者の精神を学びたい」、「研鑽の機会を設けてほしい」という声に応える後継のバトンプロジェクトがスタートすることで、創立者の精神を後継する活動がさらに活発になることに期待したい。

みんなで恩返しプロジェクト

一方、7月に行われた前期代議員会で可決された、「みんなで恩返しプロジェクト(MOP)」は、学生センターの使用開始と同時にスタート。会議室などの各部屋に掃除用具を設置すると共に、鍵の貸出時にチェックリストを渡し、施設使用後の清掃を各クラブに協力頂いている。

創立者の御配慮、寄付者の方など多くの方の支えに対する感謝を行動に移していくためのこのプロジェクトは、2014年度からは池田記念講堂の施設の清掃や、定期的な部室・活動場所の清掃等にも広げていく予定で、さらなるプロジェクトの発展が期待される。

創立者との絆 〜アメリカンフットボール部〜

「創部のときから創立者と共にあるクラブが、このアメリカンフットボール部です」と語るのはアメリカンフットボール部(以下アメフト部)40期、元主将の河田貴寛さんだ。アメフト部の歴史は、草創期の部員が荒地だった第一グラウンドを使える状態にするところから始まった。一つひとつ木や石を撤去する地道な作業を続ける中で、スタート。厳しい練習の中、創立者から直接激励を頂き、これが後に全クラブ団体の原点となった。

その御指導の中で創立者は、「道を切り開いて行くのは、大変だ。伝統の中で、クラブを作るのは簡単だ。いつの時代でも、道を切り開くのは大変だが、切り開いて行くと、泥だらけになってやっつけている。草創期とは、大変なんだ」と語りかけられた。全ての創大クラブに向けた、成長と発展を願う心からの激励である。昨年9月11日に創立者が創価大学を訪問された際、第一グラウンドで自主練習をしていたアメフト部の部員がそのお姿を見つけ駆け寄ると、創立者はこれに答えられ、万感こもる激励を下された。

その前月の8月25日は、創立者が初めてクラブを直接激励された1973(昭和48)年から40周年を迎えており、アメフト部が10年毎に行っている記念の会合の報告をした直後のことであった。

河田さんはこの日の出会い

を、「創立者のクラブへの期待と励ましの心を実感しました。部全体でお会いしたという思いで、創立者に勝利の御報告ができるように、改めて練習に励む決意ができました」と振り返った。

ここからアメフト部の怒涛の快進撃が始まる。激励の最中に行われていたリーグ戦では、40期が入学してから一度も勝てなかった宿敵の大学との試合を制し、三部リーグ優勝を果たした。昨年12月7日には二部昇格をかけた試合が行われた。結果は惜敗であったが、OB・OGも駆けつけ、部を支える多くの人々の姿を通し、クラブの伝統と継承の思いを見ることができた。

また、アメフト部では創立者の「両輪で生きていくのが一番いいんだよ」とのお言葉から、進路と部活の両立に挑戦している。歴代の先輩には、アメフトの日本代表選手や銀行の支店長など、企業の中核となって活躍する先輩も多い。「クラブ活動との両立という制約の中だからこそ、先輩、後輩、そして同期とチームスタッフのおかげで勝ち取れたと思います」と河田さんは語る。

最後に、これからの創大クラブとして、「クラブは魅力があれば続いていきます。形を変えていく勇氣も必要です。アメフト部はこれからも創立者と共にあるクラブとして、活動や試合を通して創価大学を感じてもらえるクラブでありたいです」と語ってくれた。

創価の輝き

●女子柔道部
講道館杯
全日本柔道体重別選手権大会
78キログ級
後藤美和 7位

●パイオニア吹奏楽団
第39回
アンサンブルコンテスト本選
クラリネット八重奏 銅賞
金管八重奏 金賞

●陸上部(長距離)
八王子駅伝
Bチーム 2位

●キックボクシング部
学生キックボクシング大会
宮崎隆太郎
フライ級チャンピオン

●陸上部(短距離)
神奈川マラソン
10キロメートル一般男子
セルナルド祐慈 1位
土井丸勝大 2位
柴田拓人 3位

●クルーダンス部
United Spirit Association
Japan 東京予選
2位 全国大会出場決定



団体優勝



2位 全国大会出場決定

●テコンドー部

南関東テコンドー選手権大会
川又正昭 フィン級準優勝
西垣康男 フライ級準優勝
加賀山俊 ライト級準優勝
国広徳之 フェザー級準優勝

●落語研究会

国民的大学生芸人グランプリ
大学芸会団体戦2014
赤組 エテ×モンキー
山田賢太郎
電気ドンキー

●男子フットサル部

カレッジフェスタ埼玉予選
関東大会出場決定

本部棟展示

本部棟5階エントランスホールにて行われている特別展示をご存知だろうか。

正面玄関から入って右奥に進むと、パネルとパネルの間に入り口がある。その奥には、これまで様々なクラブに創立者からいただいた激励の品々が展示されている。

これらの激励品は、2012年から2013年にかけて各クラブの協力により集められ、全創大生が見られるよう展示されることになった。

直筆で書かれた御揮毫には、創立者の創大生に対する万感の御期待と激励が込められている。草創から今日にいたるまで、創価大学のクラブとして受け継がれてきた精神が感じられる展示となっている。

その中に、英語研究会に贈られた、

創大乃
羅汁が訳せし
御書いだき
勇みてわれは
広布に世界に
五月二十六日
大作

「私の生命」とまで言ってくるださる創立者への恩返しとして、これからのクラブでさらなる飛躍を目指し、社会で光る人間性をますます磨いていきたい。

創価大学は
私の生命である
故に、創大生は、
私の真の弟子である
五月三日
創価大学は
私の生命である
故に、創大生は、
私の真の弟子である
五月三日
創価大学は
私の生命である
故に、創大生は、
私の真の弟子である
五月三日